

令和2年度 芳賀町立芳賀中学校 学校評価書

学校評価のねらい

すべての教育活動その他の学校運営が効果的に実施できているかどうか、保護者、学校、地域住民(学校評議委員=学校関係者評価委員)等が連携し、評価する。それらを通して、生徒がよりよい教育活動を受けられることをめざし、学校をよりよくするための方策を明らかにする。

1 校訓・教育目標・目指す生徒像

校訓	教育目標	目指す生徒像
創造	自ら学ぶ生徒 (創造)	・自分の考えを、自信をもって発表できる生徒 ・自ら課題を見つけ、周囲と協力して解決できる生徒
敬愛	心豊かな生徒 (敬愛)	・明るく元気に大きな声で、あいさつができる生徒 ・清掃活動に一生懸命に取り組める生徒
実践	たくましい生徒 (実践)	・「早寝・早起き・朝ご飯」を着実に実践できる生徒 ・交通ルールを守り、安全に自転車で登下校できる生徒
	ふるさとを愛する生徒 (本校の使命)	・ボランティア・奉仕活動、地域活動等に積極的に参加できる生徒 ・運動・文化芸術活動等に意欲的に取り組める生徒

2 目指す学校像

すべての生徒と職員が 夢を育み 知を磨き<創造> 心豊かに<敬愛> 汗を流して<実践> 高め合う学校

3 学校経営の方針

基本経営理念：「芳賀町に誇りを持ち 明日の芳賀町を担う生徒の育成」 ～誇れる、つよい学校・生徒づくり～
1 生涯学習社会に生きる生徒の育成
2 望ましい生活習慣と社会性の育成
3 確かな学力の保証
4 豊かな心をもつ生徒の育成
5 健やかな体をもつ生徒の育成
6 全職員による学校経営参画 (チーム学校の実践)
7 家庭や地域、関係機関との協働による学校経営 (チーム学校の実践)

4 本年度の指導視座と重点項目

視座：10年後の勝負に勝てる生徒を育てる
重点項目：人間力の基礎・基盤をつくる…思いやりの心と確固たる生活習慣 →明日の、10年後の自分のために「時を守り 場を清め 礼を正す」

5 本年度の重点目標・努力点

1 確かな学力を身に付けた生徒の育成	プロジェクト知
①基礎的・基本的な知識や技能の定着	②課題解決のための思考力・判断力・表現力の育成
③授業力の向上	④学習意欲の向上
2 豊かな心をもつ生徒の育成	プロジェクト徳
①道徳の授業の充実	②「特別の教科道徳」への準備
③学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の充実	
3 健やかな体をもつ生徒の育成	プロジェクト体
①心身の健康増進	②部活動の充実
4 夢や目標に向かって力強く自己実現を図っていく生徒の育成	プロジェクト生き方
①学業指導の充実	②生活の基盤づくり
③生涯学習社会に生きる資質の育成	

6 本年度の学校課題

10年後の社会を担う生徒の育成 ～「知識及び理解」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」を高める教育～

7 評価の仕方

評価ランク	評価規準
A	十分達成できた
B	概ね達成できた
C	あまり達成できなかった
D	達成できなかった

※ 具体的な取組は本年度、評価の【次年度の具体策】はともに教職員の具体策です。目標指数は、本年度の教職員の目標指数(%)です。

※ 自己評価表の数字は、A+B評価の割合(%)です。()内は昨年度です。

※ 達成状況の評価は、○：概ね満足 △：普通 ×：要検討
目標指数と比べて○：向上 △-3%まで ×-3%を超える

8 自己評価表

項目	評価項目 【目標指数(A+Bの肯定的回答)】	主な具体的な取組	評価A+Bの肯定的回答(昨年度) 【次年度の具体策】
プロジェクト知	1 生徒の学力の向上 生徒：授業の内容がよく分かる。 保護者：学校は学力の向上を図っている。 教職員：生徒の学力向上を図っている。 【目標指数】 生徒 80% 保護者 80% 教師 90%	【本年度の具体策】 ・教科部会を活用した授業改善指導方法の統一化、わかる授業の展開。 ・ICTの活用。 ・ねらいの提示、振り返りの仕方の研究と継続実施。 等	【達成状況】 生徒：84.1%(83.6%) ○ 保護者：82.6%(84.1%) ○ 教職員：100%(97.3%) ○ 学校関係者：100% ・肯定的な回答が80%以上と、概ね達成されている。授業のめあてを明確にし振り返る活動を行うなど学力向上に向けた取組を少しずつ理解していただいていると感じる。 【次年度の具体策】 ・教科部会を活用した授業改善。 ・指導方法の統一化、わかる授業の展開 ・ICTの活用。 ・ねらいの提示、振り返りの仕方。
	2 コミュニケーション力 生徒：自分の考え発表することができる。 保護者：学校は子どもの発表力向上を図っている。 教職員：生徒の発表力、コミュニケーション力の向上を図っている。 【目標指数】 生徒 60% 保護者 75% 教師 90%	【本年度の具体策】 ・教師の指導スキルの向上を図る。 ・ペア、小集団での話し合いを継続し、発表の流れをすることで、自信をもたせる。 等	【達成状況】 生徒：43.4%(48.2%) × 保護者：72.7%(75.8%) △ 教職員：97.4%(97.3%) ○ 学校関係者：100% ・本年度も学校課題の一つとして表現力の向上を掲げ取り組んできた。発表の苦手意識を減らす対策の一つとしての相談活動が今年はコロナ禍で制限されてしまった。ICT機器の活用などを研究しながら自信をもって発表できる支援の工夫を今後も模索していきたい。 【次年度の具体策】 ・教師の指導スキル向上。 ・ペア・小集団での話し合い、発表を行うことでの自信の確立。 ・「深い学びの手法」の実施。
	3 学習意欲の向上 生徒：授業に一生懸命に取り組んでいる。 保護者：学校は子どもの学習意欲の向上を図っている。 教職員：生徒の学習意欲の向上を図っている。 【目標指数】 生徒 85% 保護者 80% 教師 90%	【本年度の具体策】 ・深い学びとなるように授業で主体的・対話的な学びを充実させる。また、生徒の主体的・対話的な学びを生み出す課題設定の工夫をする。 等	【達成状況】 生徒：92.7%(89.2%) ○ 保護者：75.4%(76.6%) × 教職員：100%(94.6%) ○ 学校関係者：100% ・生徒の学習意欲はたいへん高い水準を維持している。教師側も教科部会を生かし、授業改善に取り組んでいる。保護者には何をやっているかわからないとの意見があるので、具体的な努力点を伝えていく必要がある。 【次年度の具体策】 ・「深い学びの手法」を取り入れた授業の増加。 ・生徒の主体的・対話的な学び。 ・基礎学力を高めることでの意欲の向上。

	<p>4 家庭学習 生徒：家庭学習の仕方・習慣が身に付いている。 保護者：学校は子どもの家庭学習の仕方を指導したり習慣化を図っている。 教職員：生徒の家庭学習の仕方を指導したり、習慣化を図っている。</p> <p>【目標指数】 生徒 75% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・学力向上の日のテストを週末課題とリンクさせて勉強させる。 ・家庭学習力アップ大作戦の工夫と推進。</p> <p>等</p>	<p>【達成状況】 生徒：66.0%(72.6%) × 保護者：68.4%(75.1%) × 教職員：97.4%(89.2%) ○ 学校関係者：100% ・生徒と保護者ともに6ポイント以上下がった。全校集会でも繰り返し学習することの大切さを伝えたり学習の目的意識を深めたりした。クラスでは時間の使い方の工夫を伝えたり、よりよい家庭学習帳を紹介したりと粘り強く指導を繰り返してきた。学力の向上には家庭学習の充実が不可欠である。学校と家庭とが連携し、学習方法を考え、意欲を高めていく必要がある。</p> <p>【次年度の具体策】 ・「学力向上の日」の効果的な活用。</p>
	<p>5 授業力の向上 生徒：授業が楽しく、わかりやすい。 保護者：学校は、子どもに、楽しく、わかりやすい授業を提供している。 教職員：生徒にとって、楽しく、わかりやすい授業を展開している。</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・教科部会での授業研究等の充実を図る。 ・効果のあった指導方法や資料の共有化を継続的に行う。</p> <p>等</p>	<p>【達成状況】 生徒：76.2%(76.3%) × 保護者：74.0%(75.8%) × 教職員：100%(100%) ○ 学校関係者：100% ・授業の進め方を研究したり教科部会で話し合いを重ねたりと授業力の向上のための工夫や、一方的な授業展開にならないよう、生徒同士が意見交換をし発表する時間を設けるなどしてきた。理解が不十分な様子の中には、振り返りを行ったりテスト前には補充を行ったりした。その努力が生徒、保護者を実感できるようにさらに工夫・改善したい。</p> <p>【次年度の具体策】 ・教科部会での授業研究等の充実。 ・効果のあった指導方法や資料の共有化。</p>
プロ ジ ェ ク ト 徳	<p>6 道徳の授業 生徒：道徳の時間に、テーマについて一生懸命考えている。 保護者：学校は様々なテーマに沿った道徳の授業を展開している。 教職員：年計に沿って道徳の授業を進めている。</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・道徳通信の継続。 ・共通題材を用いた授業の実施。</p> <p>等</p>	<p>【達成状況】 生徒：89.7%(86.9%) ○ 保護者：76.3%(77.8%) × 教職員：97.1%(91.9%) ○ 学校関係者：80% ・『考え議論する道徳』を目指し、授業研究を進め、道徳の授業の改善に努めてきた。先生方の授業の振り返りから、生徒による活発な意見交換の様子が窺われた。保護者の方にも一定の評価を得ているが、どのような内容かわからないといった意見が多く、道徳通信等で伝えていく工夫が必要である。</p> <p>【次年度の具体策】 ・学年だよりに『道徳コーナー』を設け、道徳の授業のようすを毎月保護者に知らせる。 ・共通題材を用いた授業の実施。</p>
	<p>7 道徳的実践力（本年度変更） 生徒：道徳の時間に考えたことを実践しようとしている。 保護者：子どもは、進んでよいことをしようとする心が育っている。 教職員：道徳の授業の中で道徳的実践に結びつくよう指導している。</p> <p>【目標指数】 生徒 70% 保護者 60% 教師 80%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・アンケート項目の見直し 生徒：道徳の時間に考えたことを実践しようとしている。 保護者：子どもは、進んでよいことをしようとする心が育っている。 ・道徳通信の継続。</p> <p>等</p>	<p>【達成状況】 生徒：66.2%(—) × 保護者：79.5%(—) ○ 教職員：100%(89.2%) ○ 学校関係者：100% ・よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、家庭と学校とで話題を共有することで教育効果を高めようと考え、道徳通信の発行や本校ホームページへの掲載も実施している。</p> <p>【次年度の具体策】 ・道徳の授業の中で道徳的実践力に結びつくよう指導する。</p>

	<p>8 学校行事 生徒：学校行事に積極的に取り組み、感動を共にし充実感が味わえた。 保護者：学校は学校行事を通して子どもが感動を共有し、充実感が味わえるようにしている。 教職員：学校行事を通して生徒が感動を共有し、充実感が味わえるようにしている。</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・3年間を見通した支援を行うため、各学年に応じた支援内容の充実を図る。</p> <p>等</p>	<p>【達成状況】 生徒：85.8%(86.6%) ○ 保護者：87.8%(89.4%) ○ 教職員：94.7%(100%) ○ 学校関係者：100% ・生徒、保護者ともに肯定的な意見が85%を上回り、概ね達成されていると考えられる。コロナ禍であったが練習時間や練習方法を工夫し本番を迎えることができた。保護者の参観はかなわなかったが、学級通信やホームページなどで様子を伝えることができた。1月にはDVDの配付もできた。</p> <p>【次年度の具体策】 ・学校行事を通して生徒が感動を共有し、充実感が味わえるようにする。</p>
	<p>9 清掃活動（本年度変更） 生徒：清掃活動に一生懸命に取り組んでいる。 保護者：子どもは身の回りの整理整頓を心がけている。 昨年度：子どもは家の手伝いをしている。 教職員：清掃活動において「3つのルール」を徹底させている。</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 60% 教師 80%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・アンケート項目の見直し。 保護者：子どもは身の回りの整理整頓を心がけている。 ・お掃除応援隊の支援を受けて、勤労意欲を高める。</p> <p>等</p>	<p>【達成状況】 生徒：90.6%(88.5%) ○ 保護者：61.1%(―) ○ 教職員：82.1%(67.6%) ○ 学校関係者：80% ・清掃活動には、生徒は高い数値で一生懸命取り組んでいると答えている。始まりと終わりのあいさつを行い、身支度を整え、本気の15分、無駄話をしない等の「3つのルール」も継続して呼びかけている。今後はお便りなどを通じて家庭とより連携し、勤労意欲を高めていきたいと考えている。</p> <p>【次年度の具体策】 ・「3つのルール」の徹底。 ・身の回りの整頓。</p>
	<p>10 生活習慣 「早寝早起き」（0時前就寝、6時30前起床）。 生徒：早寝早起きを実践している。 保護者：子どもは早寝早起きを実践している。 教職員：「早寝早起き」を指導している。</p> <p>【目標指数】 生徒 70% 保護者 65% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・時間設定の見直し検討 ・学年懇談等で保護者の方に促す。 ・0時前就寝、6時30前起床の呼びかけ。</p> <p>等</p>	<p>【達成状況】 生徒：79.8(67.1%) ○ 保護者：78.8(62.3%) ○ 教職員：80.6(―) × 学校関係者：100% ・生徒や保護者の約80%がおおむね実践していると回答している。しかし約19%の生徒が否定的な回答をしている。中学生の発達段階を考え、改善していく必要がある。規則正しい生活習慣の確立や重要性を認識した生活ができるよう粘り強く働きかけ、望ましい生活習慣が確立できるように保護者とも連携していきたい。</p> <p>【次年度の具体策】 ・実践していない生徒が固定化されているので、実態を把握し働きかける。 ・電子機器の使い方の指導を継続する。</p>
<p>プロジェクト 体</p>	<p>11 生活習慣(朝食) 生徒：朝食を毎日食べている 保護者：子どもは朝食を毎日食べている。 教職員：生徒が朝食を毎日食べるよう指導している。</p> <p>【目標指数】 生徒 95% 保護者 95% 教師 95%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・1年生から、3年間かけて指導する。 ・実態に合わせて、特定の欠食者に指導していく。</p> <p>等</p>	<p>【達成状況】 生徒：93.9%(90.1%) △ 保護者：92.7%(92.3%) △ 教職員：91.9%(91.9%) × 学校関係者：100% ・朝食を食べるということは、生徒、保護者ともに90%を超え、高い数値ではあるが、あまり食べない、全く食べないという生徒が10名、あまり食べない生徒は12名もいることは大変心配である。1日を過ごす重要なエネルギー源であり、脳を活性化させるという観点から、100%を目指したい。</p> <p>【次年度の具体策】 ・1年生から、3年間かけて指導する。 ・欠食者への指導。</p>

	<p>12 生活習慣(食生活) 生徒：好き嫌いなく食べることができる。 保護者：子どもは主菜副菜を交えて食べるなど、望ましい食習慣を身につけている。 教職員：主食、主菜、副菜を交えて食べるなど、望ましい食習慣を身に付くよう指導している。</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・嫌いなものもまず1口、徐々に。 ・準備を早くして、食べる時間を確保する。 ・担任が働きかける。</p> <p style="text-align: right;">等</p>	<p>【達成状況】 生徒：75.1%(73.7%) × 保護者：78.8%(79.5%) △ 教職員：91.4%(83.8%) ○ 学校関係者：100% ・生徒は昨年より1.4%上回り、保護者は昨年とほぼ同じであった。好き嫌いで食べていない生徒が97名(22.8%)もあり、心配される。バランスのよい食事が、心と体の成長を促すため、嫌いな物でも少しは食べるという習慣を身につけさせた。</p> <p>【次年度の具体策】 ・嫌いなものもまず1口、徐々に。 ・準備を早くして、食べる時間を確保する。 ・担任が働きかける。</p>
	<p>13 部活動 生徒：部活動に一生懸命に取り組んでいる。 保護者：学校は部活動の指導を一生懸命に取り組んでいる。 教職員：部活動の指導を一生懸命にやっている。</p> <p>【目標指数】 生徒 90% 保護者 90% 教師 95%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・主担当も副担当も早く部活に行く。 ・生徒の様子をよく観察する。(継続指導)</p> <p style="text-align: right;">等</p>	<p>【達成状況】 生徒：89.1%(89.4%) △ 保護者：86.7%(88.9%) × 教職員：97.4%(94.6%) ○ 学校関係者：100% ・部活動に関しては、肯定的な回答が、生徒、保護者ともに、たいへん高い数値を示している。今年は緊急事態宣言等で部活動が中止となり、活動が制限され、中体連の大会をはじめ多くの大会が中止となった。活動の目的や目標を失いつつある中、保護者の皆様の物心両面にわたる支えもあり、顧問と生徒が工夫しながら意欲的に活動する姿が多くみられた。</p> <p>【次年度の具体策】 ・主担当も副担当も早く部活に行く。 ・生徒の様子をよく観察する。</p>
プロ ジ ェ ク ト 生 き 方	<p>14 安心な学校生活 生徒：学校生活が楽しい 保護者：子どもを学校に安心して預けられる。 教職員：信頼される学校づくりに努力している。</p> <p>【目標指数】 生徒 85% 保護者 90% 教師 100%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・学業指導の「学びに向かう集団作り」の良かったところを洗い出し、学業指導の手引きの内容の改善・充実を図る。</p> <p style="text-align: right;">等</p>	<p>【達成状況】 生徒：85.9%(88.9%) ○ 保護者：95.1%(94.4%) ○ 教職員：100%(97.4%) ○ 学校関係者：100% ・85.9%の生徒が、学校生活は楽しいと答えた。保護者からも大変高い数値で、学校が楽しい、安心して預けられるという回答を得た。しかしながら、44名の生徒が否定的な回答をしている。生徒、保護者、地域、学校が一体となり、今後も、安心・安全な学校生活を提供していけるよう努力を続けたい。</p> <p>【次年度の具体策】 ・学業指導の手引きの内容を、改善・充実し、職員間で共有しながら「居がいのある学級」作りを行う。</p>
	<p>15 いじめ対応 生徒：みんなが安心して生活気持ちよく生活できるよう行動している。 保護者：学校はいじめが起こらないように、また起こったときにはすぐ解決するよう取り組んでいる。 教職員：いじめが起こらないように、また、起こったときにはすぐに解決するように取り組んでいる。</p> <p>【目標指数】 生徒 85% 保護者 80% 教師 100%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・情報の共有化とスムーズな連携を引き続き強化していく。 ・グループエンカウンターやスクールパディなども取り入れてなども取り入れて未然防止につなげる。特に集会活動や学級活動の充実、教職員のサポート体制を強化する。 ・いじめアンケートを継続して行う。</p> <p style="text-align: right;">等</p>	<p>【達成状況】 生徒：87.5%(85.3%) ○ 保護者：76.3%(76.8%) × 教職員：100%(100%) ○ 学校関係者：100% ・昨年同様、生徒の85%以上が肯定的な評価であるが、保護者には、まだまだ理解が得られていないところがある。教師は、いじめは絶対に許さない、という強固な姿勢で取り組んでいる。全員が安心して気持ちよく生活できる学校づくりに向け、一層努力する必要がある。</p> <p>【次年度の具体策】 ・情報の共有化と、初期対応の体制強化をしていく。 ・エンカウンターを取り入れ、未然防止策を充実していく。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で、問題行動への対応を共通理解のもと指導に当たる。いじめアンケートを継続して行う。
<p>16 基本的生活習慣 生徒：時間を守る・整理整頓・あいさつの生活習慣が身に付いている 保護者：学校は時間を守る・整理整頓・あいさつの生活習慣の定着を図っている。 教職員：時間を守る・整理整頓・あいさつの生活習慣の定着を図っている。</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 80% 教師 100%</p>	<p>【本年度の具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの指導とともに良いあいさつを褒める。 ・あいさつ運動を継続すると共に、教師自らが率先垂範であいさつを行うことで、あいさつを特に強化していく。 <p style="text-align: center;">等</p>	<p>【達成状況】</p> 生徒： 88.3% (87.6%) ○ 保護者： 89.1% (90.3%) ○ 教職員： 94.7% (89.5%) × 学校関係者： 100 % <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者ともに概ね肯定的な回答を得ている。しかし、地域の方からは、あいさつが以前よりできなくなったとの意見もいただいている。校長の指示もあり、あいさつの指導や整理整頓の指導を断続的に行っているが、まだまだ課題はある。家庭と連携し、認め褒めながら改善していけるように進めていきたい。 <p>【次年度の具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る・整理整頓・あいさつの生活習慣の徹底を、生徒のリーダーシップのもと、全学年、全クラスが同一歩調で身に付けさせる。 ・あいさつ運動の、内容の工夫改善を図っていく。
<p>17 地域貢献活動 生徒：地域行事に参加したり、地域の方にあいさつをしたり、地域や他の人のためになる行動がとれている。 保護者：学校は子どもが地域行事に参加したり、地域の方にあいさつをしたり、地域や他の人のためになる行動がとれるよう指導している。 教職員：生徒が地域行事に参加したり、地域の方にあいさつしたり、地域や他の人のためになる行動がとれるよう指導している。</p> <p>【目標指数】 生徒 70% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールの実践に合わせて、ジュニアボランティアと学校支援ボランティアのさらなる充実を図る。 <p style="text-align: center;">等</p>	<p>【達成状況】</p> 生徒： 76.5% (76.7%) ○ 保護者： 77.1% (83.6%) △ 教職員： 89.7% (94.7%) △ 学校関係者： 100 % <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の本年度は、地域行事も縮小されたり中止されたりと地域の方と触れ合う機会が多く減ってしまったが、一部実施できた。学校は、地域ボランティア等に参加することの意義や重要性を感じているので、活動を継続し、新たなボランティア活動や参加しやすい体制などを模索し、地域と共に生徒を育てていきたいと考えている <p>【次年度の具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールの実践に合わせて、学校支援ボランティアの活動を充実させる。 ・ジュニアボランティアの活動を町と協力して、充実を図る。 ・地域での活動の際に、中学生らしい行動が取れるよう指導する。
<p>18 夢の達成 生徒：夢を持ち、その達成のためにがんばっている。 保護者：学校は子どもが夢を持ち、その達成のためにがんばるよう指導している。 教職員：子どもが夢を持ち、その達成のために頑張るように指導している。</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 80% 教師 100%</p>	<p>【本年度の具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統立てた進路指導の充実を図る（学級活動の確保）。 ・教育相談の充実を図る。 <p style="text-align: center;">等</p>	<p>【達成状況】</p> 生徒： 72.7% (76.3%) × 保護者： 77.7% (75.1%) △ 教職員： 100% (97.4%) ○ 学校関係者： 100 % <ul style="list-style-type: none"> ・中学校生活は、生涯にわたって学ぶための基盤づくりとなるので、生徒が夢を持ちその達成のために努力することは大変大切である。そのため、家庭との連携を深め、教育環境を整え、支援し、さらに意識を高めていきたいと考える。 <p>【次年度の具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統立てた進路指導の充実を図るため、学業指導の手引きを有効活用する。（学級活動の確保） ・教育相談の充実を図る。

R 2 学校評価 【学校関係者自由記述】

プロジェクト知について

- ・家庭学習用プリントを廊下に配置したのは良いアイデアだと思います。
- ・家庭との連携は今の現状では難しいですが、ブログが毎日アップされているので、以前よりも学校を近く感じるとおっしゃる保護者の方もいらっしゃいます。ZOOM など利用できるといいですね。
- ・ICT の活用に関しては、導入の研修を重ねるなど研究を重ねられ、教職員・生徒ともに活用されている様子がHPでもうかがえました。
- ・コミュニケーションについては、同じ意見を言うのであっても、発表する能力と対話する能力は違うと思うので、授業に意見交換する場や対話的な学びを生み出す工夫や発表する時間を設けるなど様々な視点から展開されていてすばらしいと思います。
- ・HP にあった消費者トラブルをロールプレイで理解を深める授業は興味深いです。
- ・複数学年の授業を担当する縦割り生徒受け、保護者受けはいかがなものか？
- ・発言、発表については、人前では大人でも難しい。3人～数人のグループワークで意見を言うことで慣れ、肯定されることによって自信になり、+度胸が付けばクラスでの発言につながることを期待する。
- ・HP で学習の様子を写真で伝えているが、生徒、保護者の反応はいかがなものか？私は良いと考えるが、中には顔写真を心配する人もいるのかな？と思えた。

プロジェクト徳について

- ・NO 6：地域に発信しているというのは「道徳通信」の事でしょうか。生徒が地域に出て活動することが一番の発信になると思います。
- ・NO 6：「地域」に発信しているか？と評価する上では、疑問に思えたので「よくわからない」と回答させていただきました。実践できているかということであれば、「B」と評価します。
- ・学校行事はコロナ禍では特に重要なイベント。生徒たちのワクワクが家族に伝わったのだと思う。良かったです。
- ・実践は大人でも難しいです。頭では分かっているけど心が動かないと行動できません。「考え、議論する道徳」という考え方は心が育つ教育ができていると思います。
- ・No 9：学校よりも地域と保護者の在り方に課題があると思います。
- ・コロナ以前にボランティア活動に生徒が参加していた事は大変感謝しています。※今年度は地域行事も行われず、参加できなくて当然です。

プロジェクト体について

- ・食生活について「きれいなものまぜ一口」は大切ですが、中学生は科学的裏付けを理解できる年齢なので、どう身体にいいのか理解できると食べられることもあると思います。
- ・心×行動＝結果 良い結果を出そうとするならば、良い心を作ることである。良い心は良い生活習慣で作られる。
- ・生徒へのQ 1 2：大人でも嫌いな食べ物はあるのだから素直で正直な生徒が97名いても仕方ないと思う。栄養が同じ別の食物で代替できるので、質問の言葉の表現を保護者と同じにしてみてもどうか？

プロジェクト生き方について

- ・Q 1 4：生徒の回答の否定的な回答44名が気になる。学校は楽しいところであってほしい。友達関係も重要だし、このアンケートのタイミングも重なったのかもしれない。テスト結果後であれば学力も影響したのかもしれない。
- ・Q 1 6：大人は勘違いしている人が多く、自分からはあいさつせずに子どもからするものだ！と言い切る大人もいる。大人が手本を見せるべきである。あいさつされて無視する方が度胸がいる。
- ・Q 1 8：夢は目標だけではない。欲をもつことである。「～したい」が大切。こういう人になりたい、こういう人間になりたい、こういう人格をつくりたい
- ・夢＝職業 だけでは無いことを伝えてください。そして、こういう大人になりたいと思わせるのが親と先生、地域の人、芸能人、等、生徒に映る大人全員です。大人が夢をもって生きている様子を子どもに見せていかなければ、子どもは大人になりたくないと思うかもしれません。憧れられる人、に「私自身」がなることですね。
- ・プレーパークしもたかのボランティアについては、担当の先生とメールのやりとりを重ねて継続してきました。コロナ禍により中止・再開とたび重なる変更に対応していただきました。生徒たちは遊ぶ子供たちも楽しく、見ている人も微笑ましく、何より自分自身も楽しいという、みんなが成長できるボランティア活動をしてきています。一般のボランティアさんにも好評で、一緒に活動できることやおしゃべりするのが楽しみと言ってもらっています。プレパのようなボランティアがすべてではないので、もっと大変な事に出会うこともあるでしょうが、ボランティアすることでステップアップできる経験があれば乗り越えていけると思っています。
- ・基本的な生活習慣のあいさつについてですが、生徒だけの問題ではなく、周りの大人の問題でもあると思います。初めから大きな声であいさつできない生徒でも少し話をして相手が自分に対して肯定的であるとわかると明るく話せるしあいさつもできるようになります。周りに信頼できる大人が多い環境が大切です。
- ・地域貢献活動においても、初めから模範的な中学生なんていません。いろいろな個性を受け入れることができる柔軟な地域でありたいと思います。地域も成長しないとですね。

その他

- ・電子黒板使用時の工夫、研究をお願いします。
- ・消毒ボランティアでトイレを作業するときに、ほこりがひどくたまっている場所が多いです。消毒作業だけでいいですが、清掃したくなる程。早く生徒と清掃ができるようになったら嬉しいです。
- ・コロナ禍の中、学校運営にご苦労されたことと思います。先生方の頑張りに感謝いたします。先が見通せない状況ですが、with コロナの対応を悲観的に考えるのではなく、子ども達の将来に役立つこととして指導いただきたい。
- ・コロナ禍のご苦労の多い中、前向きに、できることを実践されていると感じました。
- ・ブログ毎日楽しみにしています。
- ・ICTは授業だけではなく、生徒集会をリモートで開催したり3年生を送る会のビデオメッセージ、お昼の放送の3年生への手紙など工夫を重ねていらっしゃいます。また、朝のあいさつ運動の音量調査でがんばると給食増量などの遊び心も忘れないあたりさすがです。コロナ禍をプラスに考える姿は生徒にも確実に伝わっていると思います。
- ・ブログにプレーパークのリンクを貼っていただきありがとうございます。またボランティアのご協力ありがとうございます。中学生のいないプレパはちょっとさみしいです。子ども達も中学生が来てくれるのを楽しみにしています。

・日頃より、芳賀町の子ども達の健全育成にご尽力されている芳賀中学校教職員の方々にお礼申し上げます。
学校運営協議会に関わらせていただき、私たちが学んでいた頃より、はるかに厳しい状況で業務に当たられている教職員の方々に、改めて敬意を表し、感謝いたします。

今年度の学校運営は、例年に増し厳しく難しい対応を求められたコロナ禍の中、本当に丁寧な対応をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

これから教育環境は大きく変わっていきます。少子化に伴う生徒数の減少に対応しながら、これまで以上に多種多様な個性を大切にしながら、国際的に活躍できるような人材育成を目指すとともに、地域を大切に、社会を牽引し、未来を担っていく大人となれる生徒を育てる教育が求められます。

難しいチャレンジであると同時に、現在の大人達が協力し、さまざまな分野で活躍する人々が英知を集結し協力し合うことで、希望に満ちあふれる未来を創造できる国や地域を育てていく、そんな取組にしていくことが必要と考えます。

これは、学校だけの課題ではなく、地域社会の課題であると考えます。学校も、地域も、お互いが信頼し、変わっていくことが求められています。

今後、部活動の在り方を初めとする、地域の学校に対する協力体制を研究し、地域住民の協力のもと、地域と学校が連携した教育環境整備を構築していくために、今後とも情報交換を密にし、お互いに信頼し、何でも相談できる学校と地域の関係を目指した活動を展開していくことを模索していききたいと思います。

9 まとめと次年度に向けて（学校関係者評価を受けて）

【プロジェクト知について】

- ・コロナ禍でグループ活動などが制限され、コミュニケーション力を磨く場が減ってしまった。それでも感染症対策に気を配りながら隣席の生徒との相談やグループワークなどの機会を模索してきた。今後も感染症対策に気を付けながら話し合い活動の場を設け、学び合いを進め、学力の向上を目指していきたい。
- ・コロナ禍で生徒の成長の様子や授業の様子などを保護者に参観していただく機会が減ってしまった。保護者に学校の様子を知っていただくことは重要なことであるので、参観できない代わりにホームページや各種たよりで情報発信を継続してきた。参観が実施できるようになっても継続していきたい。
- ・学力向上に向けて、昼休みの学習会を実施し学習支援を行った。家庭学習の習慣付けとして、学年内の漢字計算英単語のミニテストを実施したり家庭学習用プリントを廊下に配置しもしたりした。意欲的に取り組む生徒が多いため、今後も継続していきたい。
- ・電子黒板が導入されたことにより、視覚的に捉えやすい授業展開を実施でき、生徒にわかりやすいと好評であった。電子黒板がインターネットに接続できることは、教師にとって準備の負担が減り、利用頻度が高まった。また、アクセスポイントの導入で教室でもパソコン室のタブレットが利用できるようになったため、授業の幅が広がった。来年度は生徒一人一台のタブレットが導入されるので、有効な活用な方法の研究を重ねていきたい。

【プロジェクト徳について】

- ・「考え議論する道徳」の授業を展開するため、熱心に教材研究をしたり授業前後に情報交換をしたりするなど、担任はよりよい授業作りに工夫を凝らしてきた。今後も継続するよう促していきたい。
- ・各家庭との連携を強くすることで道徳的実践力が高まると考え、道徳通信を年5回発行し、学校での学習内容を保護者にも分かるように伝えてきた。来年度は、学年だよりに道徳コーナーを設け、連携をより深めていこうと考えている。
- ・清掃活動は、3つのルール「身だしなみ、無言で、時間いっぱい全力で」を清掃用具入れに貼り、指導を継続している。清掃場所担当者の丁寧な指導や清掃後の確認を徹底していきたい。

【プロジェクト体について】

- ・給食指導時には嫌いなものでも一口でも食べようと呼びかける取組を実施し、給食だよりや保健だよりでは栄養バランスや栄養と身体や学習の関係など知識からのアプローチなども実施してきた。今後も継続していきたい。また、養護教諭や栄養教諭による、朝食や生活習慣病と食事の関係などの授業も継続していきたい。
- ・中学生の心身を健全に育成していくには、「早寝、早起き、朝ご飯」は不可欠なものとする。生徒への呼びかけはもちろん、家庭との連携も不可欠である。今後も各種たよりや保護者会などでも粘り強く協力を促していきたい。
- ・部活動の意義を理解し、生徒にとって心身の成長の手助けとなるにしなければならない。多くの手法を考え、コロナ対策しながら生徒にとって最善な部活動の在り方を考えていきたい。

【プロジェクト生き方について】

- ・「学校が楽しい」の否定的な意見の生徒に寄り添いながら、学校・学年・クラス行事の実施、教育相談活動の充実などに取り組んでいきたい。
- ・コロナ禍でボランティア活動は制限されたがプレーパークで活動でき、利用者等から好評を得ている。今後も生徒の参加を積極的に促していきたい。また、町等に協力していただきながらボランティア内容の幅を広げていきたいと考えている。
- ・学級活動を中心に将来について考えさせていく機会を増やしたい。
- ・今年度は職場体験学習（マイ・チャレンジ）は実施できなかったが、職業人講話と題し、地域で仕事をしている方を招き、講話を聞いたり質問したりと有意義な時間を過ごすことができた。生徒達が大きく成長していくためには「夢」をもつことは必要不可欠である。そのために先輩や社会人の方からの講話は有効であり、今後も充実させていきたい。
- ・生徒会を中心に、いじめゼロ宣言を継続し、家庭、地域と連携を図り、早期発見のためのアンケートの実施や休み時間の巡回など継続していきたい。
- ・コロナ禍で実施できなかったが、地域の方の授業支援ボランティア、お掃除ボランティアなどの機会を探していきたい。